

## 家庭教育支援チーム取組状況（令和 5 年 4 月 1 日現在）

### 1 目的

不登校児童生徒とその保護者を対象とし、民生・児童委員が学校と緊密に連携・協力しながら学校とは異なる立場による日常的な支援活動を行うことで、保護者の子育てに対する不安感や負担感を解消するとともに、家庭や子どもたちの孤立化を防ぐことを目的とする。

### 2 令和 4 年度取組結果

各学校・地域により、学校と民生・児童委員との関係性の強弱に差異があることから、各学校・地域を個別に訪問したうえで、関係性の構築・強化、仕組みの理解促進を中心とした取組を実施し、区内全地域での拡充を完了させた。

また、学校の把握する具体案件に積極的に関与し、民生・児童委員の紹介や連絡体制の再確認などを通じ、学校と民生・児童委員との協力関係をより確実にするとともに、円滑な連携がしやすい環境の整備に努めた。

#### ○民生・児童委員への協力依頼

- ▶ 4 月 仲宿地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 7 月 期会長協議会、各地区民生・児童委員協議会
- ▶ 10 月 板橋地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 12 月 徳丸地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 1 月 期会長協議会
- ▶ 2 月 大谷口地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 2 月 蓮根舟渡地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 2 月 高島平地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 3 月 期会長協議会、各地区民生・児童委員協議会
- ▶ 3 月 仲町地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 3 月 富士見地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 3 月 中台地区民生・児童委員打合せ
- ▶ 3 月 前野地区民生・児童委員打合せ

#### ○各学校の状況把握・理解促進（3 小学校・4 中学校で実施）

- ▶ 板 橋地区：板橋第二小学校・板橋第四小学校・金沢小学校  
板橋第一中学校・板橋第五中学校
- ▶ 仲 宿地区：板橋第三中学校・加賀中学校

### ○顔合わせ会の実施（12 小学校・5 中学校で実施）

- ▶板 橋地区：板橋第二小学校・金沢小学校・板橋第一中学校
- ▶仲 宿地区：板橋第一小学校・中根橋小学校・加賀小学校  
板橋第三中学校・加賀中学校
- ▶仲 町地区：板橋第六小学校・弥生小学校・板橋第二中学校
- ▶桜 川地区：上板橋小学校
- ▶成 増地区：赤塚小学校・成増小学校・成増ヶ丘小学校・三園小学校  
赤塚第二中学校

### ○三者（民生・児童委員、学校、教育委員会）によるケース会議の実施 （4 小学校・2 中学校で実施）

- ▶志村坂上地区：志村第二小学校・志村第四中学校
- ▶蓮 根地区：蓮根第二小学校
- ▶前 野地区：北前野小学校
- ▶徳 丸地区：徳丸小学校
- ▶高島平地区：高島第一中学校
- ※二者（民生・児童委員、学校）による連携は随時実施

### ○活動実態の把握（一例）

#### <ケース①> 関係機関紹介

- ▶学校を欠席しがちな生徒について、学校と連携しながら家庭環境を把握し、生活の基盤を整えるために関係機関を紹介した。

家庭の様子	祖母と兄の 3 人家族であり、祖母の体調不良時に学校を欠席するなどのヤングケアラー状態であった。
支援内容	祖母の件はおとしより相談センターや福祉事務所を紹介し、適切な支援を受けられるよう家庭とつないだ。
結 果	卒業後の進路も無事に決定したため、引き続き見守りを実施していくこととした。

#### <ケース②> 登校後の寄り添い支援

- ▶学校が心配な生徒の情報を民生・児童委員と共有し、民生・児童委員による登校後の別室での寄り添い支援を実施した。

本人の様子	学習面に課題があることから別室登校をしており、あいさつはするが話をすることはほとんどなかった。
支援内容	別室において生徒の話を傾聴し、課題の取組を見守り、給食と一緒に食べるなど、寄り添い支援を実施した。
結 果	本人の話を傾聴し、進路に関する不安な気持ちが和らぐよう寄り添い支援を継続したところ、笑顔で話をするが増えた。高校進学の意味があり、無事に進学校が決定し、高校生活への希望を語り卒業したため、支援を終了した。

<ケース③> 朝の声掛け・寄り添い・登校支援

▶学校が心配な児童の情報を民生・児童委員と共有し、家庭の意向を確認したうえで、朝の声掛け・寄り添い・登校支援を実施した。

家庭・本人の様子	母親が亡くなり大学生の姉と2人暮らしになったことから、遅刻や休むことが増えるようになった。
支援内容	大学生の姉・本人と学校で顔合わせを行い、現状を確認しつつ今後の支援の方向性を決定した。通常の時間に登校できるよう自宅に訪問のうえ声を掛け、会話をしながら学校まで同行した。
結 果	支援を継続した結果、登校準備を整え元気に家を出てきて、通常の時間に登校することができるようになってきたため、段階的に登校支援の日数を減らしながら引き続き様子を見ていくこととした。

<ケース④> 朝の声掛け・寄り添い・送り出し

▶学校が心配な児童の情報を民生・児童委員と共有し、家庭の意向を確認したうえで、朝の声掛け・寄り添い・送り出しを実施した。

家庭・本人の様子	父子家庭で父親が朝早く出かけるため、本人は寝過ごしてしまう様子である。直近3ヶ月の登校状況は、2日程度しか通常の時間に登校ができておらず、遅刻することが多い。朝の声掛けをすると通常の時間に登校できる可能性がある。6年生であり中学生まで残り数ヶ月という時期であったため、登校するリズムを整えたいとのことであった。
支援内容	2学期中は8時、3学期の途中から7時45分に訪問のうえ声を掛け、30分後に再度様子を伺い、送り出しを見届け、その結果をその都度学校へ連絡した。
結 果	支援を継続した結果、遅刻気味であった登校時間も徐々に早まったことに加え、友人・家庭・学校・自身のことなど様々な話をしてくれるようになり、登校のリズムを取り戻しつつ前向きな姿勢が見られるようになった。 中学校の入学式には元気に登校し、ゴールデンウィーク明けも頑張っている様子であったため、支援を終了した。

○家庭教育支援チーム運営研究会（オンライン）の開催

▶機会や参加者を限定することなく、各民生・児童委員が自身の都合に合わせて視聴することができるよう、講義動画を板橋区ホームページ上に掲載する方法により開催した。

対 象：板橋区内で活動する全ての民生・児童委員

講 師：カウンセラー 山内 玲子 氏

テ ー マ：不登校に悩む保護者・お子様への『声掛けのヒント』

講義内容：①自分の状態を整える（約14分）

②声掛けの注意点（約10分）

③事例紹介（約16分）

④効果的な傾聴姿勢や声掛けの方法（約18分）

掲載期間：令和5年3月15日～令和6年3月14日

### 3 拡充経過

年 度	理解促進	顔合わせ会
令和元年度（平成 31 年度）	16 小学校・4 中学校	0 小学校・1 中学校
令和 2 年度	14 小学校・9 中学校	24 小学校・9 中学校
令和 3 年度	18 小学校・5 中学校	10 小学校・4 中学校
令和 4 年度	3 小学校・4 中学校	12 小学校・5 中学校
全 校 数	51 小学校・22 中学校	46 小学校・19 中学校（※）

※日頃から民生・児童委員との情報共有が活発に行われている学校は、改めての顔合わせ会は実施せず

### 4 令和 5 年度取組予定

#### ○学校、民生・児童委員間における連携の維持・強化

▶令和 4 年 12 月に行われた民生・児童委員の一斉改選及び学校管理職の異動に伴い、当初の顔合わせ会の際に決定した連絡窓口に変更があった学校ごとに改めての顔合わせ会を実施することで、連絡体制を再構築し連携の維持・強化を図る。

#### ○訪問型支援の定着

▶学校と民生・児童委員が連携し、教育委員会がサポートする体制のもと、不登校児童生徒とその家庭が持つ悩みや不安に寄り添い、民生・児童委員による相談対応や登校支援等の訪問型支援を行い、主体的な支援活動の定着をめざす。

#### ○運営プロセスの向上

▶取組状況を把握したうえで課題を明確にし、学校や民生・児童委員等と連携しながら課題解決を検討することで、より効果的な支援の実現をめざす。

#### ○家庭教育支援チームの認知度向上及び理解促進

▶家庭教育支援チームの仕組みや取組状況など家庭教育支援チームについて、学校、民生・児童委員等に周知し、理解醸成及び認知度向上を図る。

#### ○家庭教育支援チーム運営研究会の開催

▶家庭教育支援チームの運営に携わる民生・児童委員を対象とした、支援に関する知識や支援方法などの習得のための講習会を通し、人材育成及び支援の質の向上を図る。